

器具若しくは容器包装又はこれらの原材料一般の規格改正案（対照表）

改正案（新）	現行告示内容
<p>2 メッキ用スズは、鉛を <u>0.1%</u> を超えて含有してはならない。</p> <p>3 鉛を <u>0.1%を超えて</u> 又はアンチモンを 5%以上含む金属をもつて器具及び容器包装を製造又は修理してはならない。</p> <p>4 器具若しくは容器包装の製造又は修理に用いるハンダは、鉛を <u>0.2%を超えて</u> 含有してはならない。（<u>ただし書きを削除。</u>）</p>	<p>2 メッキ用スズは、鉛を <u>5%以上</u> 含有してはならない。</p> <p>3 鉛を <u>10%以上</u> 又はアンチモンを 5%以上含む金属をもつて器具及び容器包装を製造又は修理してはならない。</p> <p>4 器具若しくは容器包装の製造又は修理に用いるハンダは、鉛を <u>20%以上</u> 含有してはならない。<u>ただし、缶詰用の缶の外部に用いるハンダについては、サニタリー缶にあつては鉛を98%、サニタリー缶以外の缶にあつては鉛を60%まで含有することは差し支えない。</u></p>

器具及び容器包装の製造基準改正案（対照表）

改正案（新）	現行告示内容
<p>1 銅製又は銅合金製の器具及び容器包装は、その食品に接触する部分を全面スズメッキ又は銀メッキその他衛生上危害を生ずるおそれのない処置を施さなければならない。<u>ただし、固有の光沢を有するもの、又は高温で使用するにより表面のメッキがはがれるおそれのあるものは、この限りでない。</u></p>	<p>1 銅製又は銅合金製の器具及び容器包装は、その食品に接触する部分を全面スズメッキ又は銀メッキその他衛生上危害を生ずるおそれのない処置を施さなければならない。<u>ただし、固有の光沢を有し、かつ、さびを有しないものは、この限りでない。</u></p>